



沖縄県立総合教育センター
所報



第89号 2024年3月発行

発行者 沖縄県立総合教育センター

所長 上原源三

〒904-2174 沖縄県沖縄市与儀3丁目11番1号



令和5年度 研究発表会

～ 調査研究統一テーマ 「これからの時代に必要となる資質・能力の育成」 ～

「令和5年度 沖縄県立総合教育センター 研究発表会」を令和6年2月2日(金)に開催しました。

「個人・共同研究」は、各班・主事の専門性を生かし、学校の教育課題解決や教育力向上に資する研究として、8編の発表を行いました。「プロジェクト研究」は、学びに向かう力を育成する教育の充実を図ることを目的に、沖縄県立北中城高等学校を研究協力校として行いました。各教科等において「役割」に着目したパフォーマンス課題を「未来課題」と名付け、それを活用した授業等の実践から見えてきた成果および課題を発表しました。

これら研究の報告書や成果物等は、本総合教育センターWeb ページ内のバナーから閲覧することができ、ダウンロード可能な資料もありますので、是非ご活用下さい。

また、同日開催の教育講演会では、学校法人桐蔭学園理事長 桐蔭横浜大学教授 溝上慎一 氏に「現代社会を力強く生きるための主体的・探究的な学びと資質・能力の育成」のテーマで講演をしていただき、多くの学びがありました。

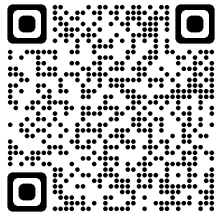
令和6年度も本県及び各学校において、教育課題解決の一助となるよう調査研究および教育講演会を企画しています。

【 沖縄県立総合教育センター 】 www.edu-c.open.ed.jp

【 教育情報共有システム 】 <https://kyosys.open.ed.jp> 調査研究報告書・長期研修報告書および成果物

【 プロジェクト研究委員会 】 kenkyu.edu-c.open.ed.jp 各教科等における実践紹介及び指導案等の資料

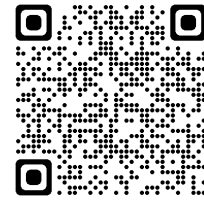
【 沖縄県立総合教育センター 】



【 情報共有システム 】



【 プロジェクト研究委員会 】



令和6年度 移動教育センター講座 (宮古・八重山)

宮古地区と八重山地区において、小中学校の教員および教育関係者を対象に、理論学習や実践事例紹介、ワークショップ等、9講座を行う予定です。多くの御参加をお待ちしています。

*主催：本総合教育センター

*期間：令和6年5月～8月

*場所：各地区の教育事務所

*詳細：4月以降にWeb 掲載

【 開 講 予 定 講 座 】

- ① 小・中学校 特別活動
- ② 小学校へき地校複式学級担任
- ③ 小・中 特別支援教育
- ④ 小学校 算数
- ⑤ 小学校 国語 ※オンライン講座のみ
- ⑥ 小学校 図工 ※令和6年度から新設
- ⑦ 国際理解・開発教育 (ESD・SDGs)
- ⑧ 小学校 音楽 ※令和6年度から新設
- ⑨ 小・中 特別な教科 道徳

令和 5 年度県立学校初任者研修事業

【高等学校・特別支援学校】

令和 5 年度の初任者研修対象者は高等学校 46 名、特別支援学校 31 名 (計 77 名) であり、4 月 4 日の開講式を皮切りに、本総合教育センターで実施する校外研修が 13 日程度、各配置校においては校内研修が 180 時間程度、実践的指導力や使命感、幅広い知見を得ることを目的に実施しました。

平成 3 年度 (高等学校)・平成 4 年度 (特別支援学校) から実施している初任者研修制度について、幾度か改定が図られてきましたが、令和 5 年度も大幅に見直されました。変更点は校外研修の日数を 17 日から 13 日程度に短縮、校内研修については、「一般研修」「教科等研修」それぞれに「OJT (On the Job Training)」形式による研修の新設です。その趣旨として、「初任者研修の弾力的実施について (文科省通知) (平成 30 年) において、「各地域の若年期における教職経験者研修の実施状況等を踏まえ、実施時間や実施日数を弾力的に設定できる」と示されたことに加え、働き方改革推進の観点から、初任者研修実施に係る学校現場の課題解決・業務改善を図るとともに、「OJT」の活用により教職員として必要な知識や技能、態度等を組織的・計画的・継続的に高め、学校内における人材育成を通じた学校全体の活性化が挙げられます。

「OJT」について、当初、聞き慣れない形式に指導教員等から戸惑いの声が挙がりましたが、徐々に理解が深まり、各配置校においては「チーム学校」を基盤に、管理者を中心とした全校体制で研修が行われ、個別最適かつ協働的な研修の実現にも繋がりました。また、校外研修については、沖縄県公立学校教員等育成指標に示されている「教職を支える力」「生徒指導力」「授業実践力」等の資質・能力の育成に向け、精選された質の高い研修を実施することができました。採用ステージの目標である「学校に活力を与える」役割を果たし、教職 2 年目研修に向けて準備を進めています。



県立高等学校初任者



県立特別支援学校初任者

【養護教諭】

養護教諭初任者は小学校 8 名、中学校 3 名、高校 1 名、特別支援学校 2 名の合計 14 名で、実践的指導力を養うことを目的に、本総合教育センター等の研修を 12 日、校内研修を 16 日程度、実施しました。

例年、保健管理を中心に研修を行っておりますが、今年度は、新たに学級担任等との TT による保健教育を実施し、各学校において管理者、研修指導者及び先輩教員からの指導・助言を受けながら、指導案作成や授業実践を行い、学級集団等に対し健康課題解決のアプローチを行うことができました。初任研での学びを土台に、校務をしっかりと担う「基礎ステージ」へ進んでいきます。



養護教諭初任者

【学校栄養職員・栄養教諭】

令和 5 年度の学校栄養職員の初任者は、本総合教育センターの校外研修で栄養管理、衛生管理の基礎内容を中心に研修を実施し、小学校 4 名が修了しました。また、栄養教諭の初任者 (県立学校 2 名、小学校 2 名) は、栄養教諭としての使命感及び専門的知識を学ぶとともに、食育推進体制の中核として、学校等と連携・協働するための方法について理解を深めることができました。研修で学んだことを生かし、学校給食を生きた教材として「指導と管理の一体化」に向けて取り組んでまいります。



学校栄養職員初任者



栄養教諭初任者

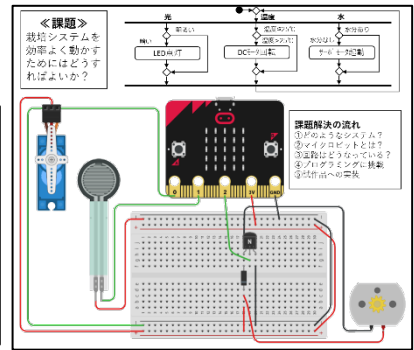
中学校技術自主講座 ～マイクロビットを使用した栽培システムづくり～

令和5年度の技術科研究室の自主講座を開催し、「マイクロビットを使用した栽培システムづくり」を実施しました。この研修会は中学校技術科の目標である「技術革新を牽引する力」を生徒が高めていくために、教師の指導力向上を目指すものでした。当日は、本総合教育センターのクロムブックを使用してクラスルームに提示された資料をもとに、シミュレーションソフト(Tinkercad)を活用して「回路設計」「プログラミング」「マイコンへのアップロード」などの作業を行いました。参加者はそれぞれの理想とするシステムの実現を目指し、何度も試行錯誤を行うことで、生徒の持つ技術的な課題や具体的かつ効果的な解決策を見出す力を身につけさせるために必要なスキル、またアプローチを体得している様子が見れました。

このような研修を通して、生徒たちが先進的な技術を活用し、問題解決能力を高めていくための効果的な指導ができるよう、今後も技術科における継続的な学びの場を充実させていきたいと思っております。



栽培システムの動きの検討



栽培システムの構想図

参加者の感想

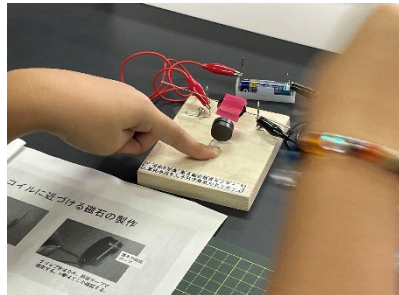
○現在、指導に困っている計測・制御の新しい教材開発のヒントになった。○内容も充実していました。活用できるようにまずは自分をもっと試してみたいです。○技術は、各学校1人しかいないので、教えてくれる同僚もいません。自分だけでは、考えられなかった内容を教えて頂きありがとうございました。○初めてシミュレーションソフト(Tinkercad)を使ってみて、授業での活用が効果的に行えると思った。○苦手分野でもあるので、今後も継続して勉強していきたいです。

令和5年度 体験学習教室 ～電気に関する実験や星空観察などの体験活動～

令和5年度の理科研修班の体験教室の取り組みとして「夏休みおもしろ科学教室」「移動おもしろ科学教室 in 石垣島」「親子星空教室」を実施しました。「科学教室」では、小学3年生以上の親子を対象に身近なものを利用した実験として、「備長炭電池作り」「クリップモーターの製作」を行い、電気の作られる仕組みやモーターの回る原理を学びました。また、小学校4年生以上を対象とした「親子星空教室」を夏と冬に実施し、11月24日(金)と25日(土)に冬の星空教室を開催しました。星座観察では、曇り空ではありませんでしたが、4つの天体望遠鏡や天体ドームの大型望遠鏡を使い、雲の切れ間から、土星の環や木星の周りがある4つの衛星を観察することができました。月の観察では子どもたちが自ら天体望遠鏡を操作し、月が移動することやクレーターを観察することができました。



科学教室① 備長炭電池



科学教室② クリップモーター



親子星空教室 星空観察

令和6年度も、さらに充実した体験学習教室を計画しています。詳しくは各学校や教育センターのWebページを通じて案内します。皆様のご参加をお待ちしています。

令和 5 年度 障害者週間啓発事業

特別支援教育班では、毎年、12月3日～9日の障害者週間に合わせて「広く一般の人々に特別支援教育や障害についての理解啓発を図る」ことを目的として障害者週間啓発事業を行っております。

令和2年度から令和4年度までは新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、本総合教育センターWebサイト上で「Web展示会」という形で実施を行いました。令和5年度は新たな取り組みとして、本総合教育センター多目的研修棟で事業PRイベントとして「ボッチャ体験交流」を実施しました。

【 特別支援教育 Web 展示会 】

令和5年12月1日～令和6年1月31日までの2ヶ月間、特別支援教育に関することや県内の特別支援学校の情報(学校紹介、幼児児童生徒の作品、教材・教具等)、その他、国や県・関係機関が公開している様々な情報を本総合教育センターWebページにて公開しました。

特別支援学校に通う幼児児童生徒の魅力ある作品等を紹介し、多くの方々にご覧いただきました。



【 ボッチャ体験交流 】

12月3日(日)に本総合教育センター多目的研修棟にてボッチャ体験交流が行われました。パラリンピックの正式種目であるボッチャは「地上のカーリング」とも呼ばれ、ジャックボールと呼ばれる目標球にいかにか近付けるかを競うスポーツです。赤と青に分かれて6球ずつ投げ合いますが、的(ジャックボール)も弾いて移動することができるため、カーリングとは一味違う戦略や面白さがある競技です。ルールそのものはシンプルなので、誰でも一緒に楽しめるのも、ボッチャの大きな魅力です。

体験当日は、幼児から大人まで22組70名余りの方が会場に集いました。当日の運営に際しては、ゲームのデモンストレーションや各コートの進行等を鏡が丘特別支援学校ボッチャ部の生徒達が担いました。体験では、ボッチャ部の生徒と本総合教育センター所長によるデモンストレーションでおおよそのルールを学んだ後、5つのコートに分かれゲームを行いました。各コート、珍プレー・好プレーに笑顔と歓声が溢れ、会場が一体となった素晴らしい交流となりました。また、同会場では、特別支援教育に関するパネル展示も開催され、真剣な表情で見入る参加者の姿も多く見られました。展示会に使用したパネルの一部は、美咲特別支援学校総合教育センター分教室オフィスアシスタント班の生徒が職業の授業で製作(印刷)を行いました。

来年度も、特別支援教育や障害について、理解啓発を推進する取り組みを継続していきます。

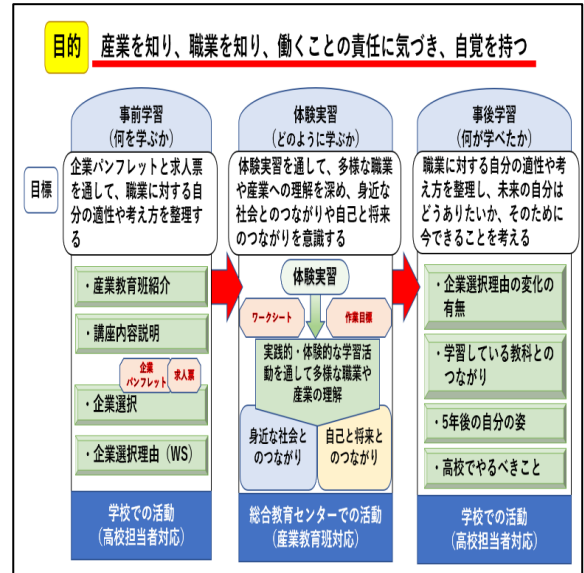


ボッチャ体験交流 参加者アンケートより

- ・ボッチャを通して、インクルーシブな空間が実現できていたのが感動しました。
- ・支援学校の生徒さんがわかりやすく教えてくださり、子供たちとともに楽しく参加できました。
- ・ボッチャ体験をすることで、特別支援教育について家族で話をするよい機会になりました。
- ・お兄さん、お姉さんがやさしく教えてくれたのでうれしかったです。また、ボッチャをやりたいです。

体験実習を通して生活の中の仕事や未来の自分を探してみよう！ ～模擬会社におけるリアル体験実習プログラムの構築～

本総合教育センター産業教育班（以下、「本班」とする）では、産業教育共同利用施設として農業・工業・商業の産業分野が集結し、複数の産業について学習できます。その特性を生かし専門高校1学年を対象に、産業教育に関する視点で多様な職業や産業に対する理解を深め、身近な社会とのつながりや自己と将来のつながりを見通し職業選択の方向性を支援していく体験実習プログラムです。本班の6つの研究室を企業に見立て生徒は疑似職場体験を行います。事前学習（所属校）、体験実習（本班）、事後学習（所属校）の一連を体験実習プログラムとして、右図のような内容で行います。「事前学習」では、生徒が各企業のパンフレットや求人票を見比べ、自分に合った企業を選択させ職業に対する自分の適性や考え方を整理する学習をします。「体験実習」では、設定された作業目標と業務日誌をまとめることで働くことの責任に気づき、自覚を持つこと意識させた体験を行います。「事後学習」では、体験実習を振り返り職業に対する自分の考え方を整理し、未来の自分の姿を設定し、高校在学中にやるべきことを考える学習をします。生徒は、体験実習プログラムを通して、身近な社会とのつながりや自己と将来のつながりを見通し職業選択の方向性を見出す。今後は、さらに効果的な学習の支援となるよう研究を継続します。



体験実習プログラムの概要

産業体験プログラムを通して、地域や社会に目を向け、特産品や魅力を生かす方法について考える ～北中城高等学校 総合的な探究の時間～

10月18日(水)北中城高等学校の「総合的な探究の時間」に、1年1組38名を対象にした産業体験プログラムが行われました。体験プログラムは、右図に示すような目的と方法で行います。産業技術教育センターを「さんぎ村」という架空の村に設定し、生徒たちには北中城村役場の職員という役割を与えます。「さんぎ村」にある6つの模擬会社が行っている地域特性(魅力・特産品)を生かす取り組みについて体験学習をすることで、「北中城村の地域特性・魅力の生かし方について、北中城村役場の職員の立場としてどのように取り組んでいくか」という学校での探究テーマにつなげていきます。「さんぎ村」では、地域の生産物を活用して新しい商品をつくる会社や地域産業の商品に付加価値をつけたりする会社等、地域の活性化につながる内容を取り入れるように工夫しました。体験プログラムを通して、地域や社会に目を向け、特産品や魅力を生かす方法について考えることができました。

《目的》 何を学ぶ？
 「体験学習」を通して
 ①さんぎ村の地域特性(魅力・特産品)を生かす取り組みについて学ぶ
 ②北中城村の特性・魅力に気づき活かす方法について学ぶ

《方法》 どのように学ぶ？
 ① 役割：北中城村役場の職員企画振興課・地域振興係
 ② 6つの企業(期)にわかれる

産業	企業名	企業名
農業	つばめファーム：栽培	Uetouフーズ：食品加工
工業	K's製作所：金属加工	SOKYU HANDS：アクリル加工
商業(サービス)	夢プランニング：観光体験	GMカンパニー：アニメイト

③それぞれの企業が行っている地域の特性(特産品・魅力)を生かす方法を体験する

地域活性実践プログラムの目的と方法



希少ランの鉢植え体験



酸乳飲料の製造体験



金属加工のCAD体験



キーホルダー製作体験

令和 5 年度小中学校教職員のための I C T 研修まとめ ～研修・地区・対象別受講状況報告～

I T 教育班では、小中学校教職員を対象とした、「I C T 教育研修」「夏期短期研修」「出前研修依頼研修」の 4 つを実施しております。本年度は累計 1283 名（1 月現在）に受講いただきました。

- ① I C T 教育研修では 5 つの講座を実施し、講座満足度は 97% でした。特に 5 月「教育の情報化推進講座」では、あらかじめ有識者講演動画を視聴いただき、当日意見を出し合うというハイブリッド研修とし、高い評価をいただきました。
- ② 夏期短期研修では 13 種 28 講座を実施し、1403 名が受講しました。講座満足度は 96% でした。
- ③ 出前研修ではプログラミング教育、情報モラル教育、授業における I C T 活用の講座を 7 校で実施し、173 名が受講しました。講座満足度は 99% でした。
- ④ 依頼研修では主として各地区の研究会(事務職員・養護教諭・栄養教諭等)を対象に、Microsoft Teams 活用講座・Microsoft Forms 講座・Google Workspace 講座等を実施しました。

概ね講座満足度は高く、ニーズに応じた研修を実施できていると考えますが、特に① I C T 教育研修に関して、応募数が少ないため、令和 6 年度は早めの周知やその方法の検討と、応募期間延長などで対応すると共に、研修のオンライン化・ハイブリッド化をより進め、学び続ける教職員や学校を支援していきたいと計画中です。皆様のご応募をお待ちしております。

令和 6 年度 I C T 教育研修スケジュール（詳細はセンター研修計画をご参照ください）
 5～6 月 教育の情報化推進講座 6 月 校務の情報化講座 11 月 授業における I C T 活用講座
 11 月 中学校教員のための I C T 活用講座 12 月 小学校教員のための I C T 活用講座

安定・安心・安全な県立学校ネットワーク環境の構築 ～NEXT G I G A スクールを見据えた通信環境の整備～

I T 教育班では、安定・安心・安全な県立学校ネットワーク環境を構築するため、教育 D X 推進室や教育支援課とともに以下のような取り組みを行ってきました。それらについて解説していきます。

	課題	課題解決に向けた取組
1	ネットワークの安定化	ローカルブレイクアウト (MPC・XRM) の導入
2	安心安全なネットワークの構築	TMWSaaS を用いたフィルタリング実施
3	校内無線 Wi-Fi の高速化	校内 AP から出力される電波を適正化

1. ネットワークの安定化

令和 4 年度より 1 人 1 台端末を活用した授業が本格スタートしましたが、ネットワークの不安定さが課題でした。原因究明や会議を重ね、新サービス「MPC」「XRM」（各契約の詳細説明は省略）を導入しました。主要なアプリ通信をローカルブレイクアウトさせることにより、安定化を図っています。ネットワーク担当者（アンケート）の 9 割が「ネットワークが安定してきている」と回答しています。

2. 安心・安全なネットワークの構築

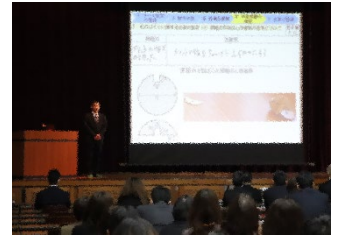
先述したネットワークの不安定さが原因で、県立無線 Wi-Fi において「TMWSaaS を用いたフィルタリング（有害サイトへの接続をブロックする処理）」の実施が難しい状況でした。今年度は上記 1 の取組と連動して「フィルタリング」を実施できています。これにより安心・安全なネットワーク環境の提供が可能となり、先生方も安心して 1 人 1 台端末を活用した授業展開を行うことができています。

3. 校内無線 Wi-Fi の高速化

県立学校内に設置されているアクセスポイントから出力されている電波は 2.4GHz 帯がメインでした。2.4GHz 帯は「遠くに届く・速度は遅い」という特性があります。速度改善のために規格を 5GHz 帯に限定し、学校ごとのメンテナンス実施により無線 Wi-Fi 高速化が実現できています。

令和 5 年度 後期 ・ 1 年長期研修研究報告会

令和 5 年度後期・1 年長期研修研究報告会が 3 月 5 日(火)～8 日(金)の日程で、本総合教育センターで開催されました。長期研修員 38 名が各自のテーマに基づき、教育課題の解決に向けて熱意のある報告を行いました。この研究報告会から、研究成果が実りある研究だったことが伝わってきました。この研究成果を教育現場でこれから還元していくことを期待し、下記に研修の感想を掲載します。



教育とは -新たな気づきと決意-

教育経営班 県立小祿高等学校 教諭 萬木 ちあき



「教育って何？」最初の教育センター所長講話で投げかけられた問いである。「教育とは…」様々な定義、考え方があるが自分自身にとって「教育」とは何か改めて考えを巡らせた。教師としての経験を積み重ねるほど陥りがちな、分かっているつもりで実践している事があることにも気付かされた。ここでの日々は、学びに溢れ感謝の気持ちで溢れていた。苦しい時にサポートして下さる主事、研究に取り組む姿で勇気づけてくれる仲間、そして協力してくれる勤務校への感謝である。今後は、高いプロ意識と学び続ける姿勢を保ち実践活動に邁進したい。

1 年長期研修を終えて

I T 教育班 八重瀬町立白川小学校 教諭 小橋川 忠士



I T 教育班の長期研修員として 1 年間を過ごし、私が 1 番学んだことは「教員として学び続ける姿勢」です。それは、教育課題に正面から取り組む長期研修員の先生方の姿から学ばせて頂きました。変化の激しい時代だからこそ、常に学び続け変化を恐れず柔軟に対応できる教員でありたいと思います。また、所長をはじめ班長、主事の方々、I T 教育班の長期研修員のみなさん、所属校の先生方のサポートで研修が充実したものになりました。感謝申し上げます。今後も研究を続け、子供たちに還元できるよう努めていきたいと思っています。

産業教育ってわくわくする

産業教育班 県立八重山農林高等学校 教諭 東内原 聖子



産業教育班の長期講座「産業教育」で、「農業で育てた農産物を家庭科で調理、商業でマーケティングを行い、工業で製造した移動式販売車で販売しよう」という企画を考案しました。農工商家庭科の各技術を連携させることで、「産業」の可能性に期待が膨らみわくわくしました。班長をはじめ主事の皆さまには、各研修及び研究にご教授いただき、産業教育の魅力と役割を改めて実感させていただきました。ありがとうございました。今後も、ともに切磋琢磨した研修員との縁を深め、さらに本研修での学びを糧に、生徒たちに「産業教育」の魅力を伝え、共にわくわくしていきたいです。